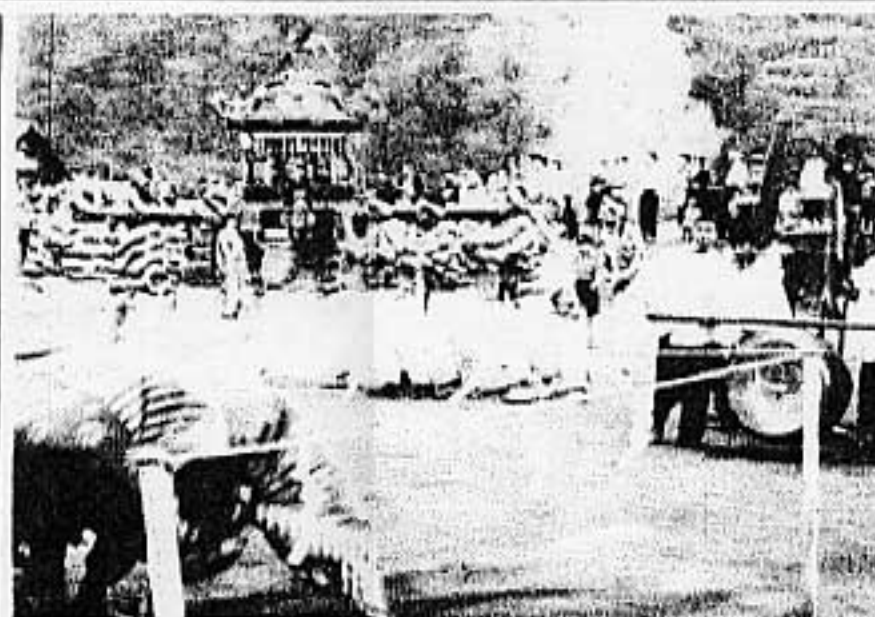


うたしな炭鉱の記憶再生塾 通信

<第1号>
昭和30年代
炭鉱の祭り
特集号
発行：うたしな炭鉱の記憶再生塾
発行日：平成12年3月17日

いぎわろう 炭鉱まつり

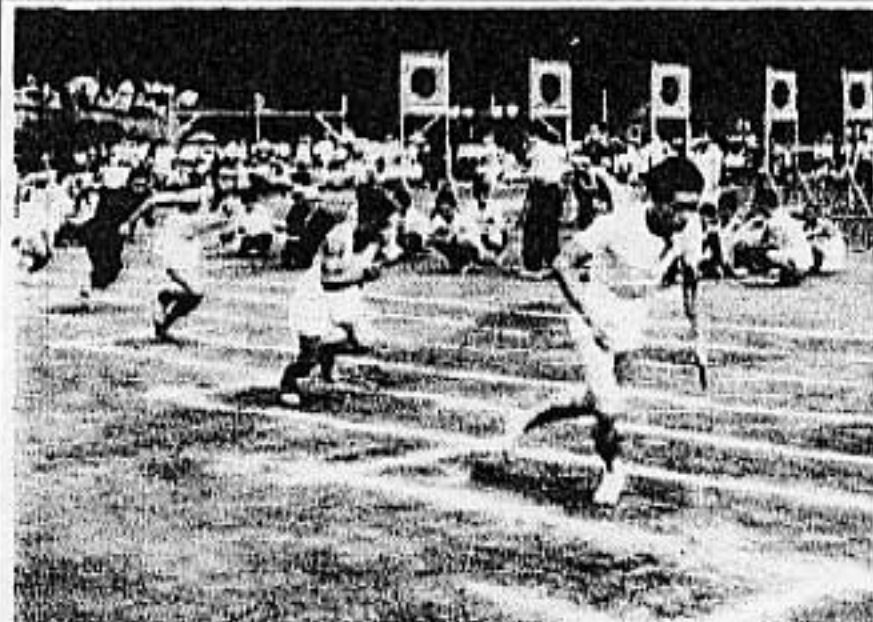
五月十一、十二、十三日は、各炭鉱の山神社の祭典が一斉に行われた。半纏姿の若者の担ぐ神輿が炭住街を威勢よく練り歩き、子ども神輿がそれに続いて祭りを盛り上げた。どこの家にも、軒花が飾られ、各所に御神灯が灯り小さな子はいい着物を着せてもらっておはしやぎし素人演芸会も行われるなど街中祭り一色になった。



空知炭鉱山神社の神輿 (メーデー炭山祭りに撮影) 東光地区

もりあがった 炭鉱の大運動会

どこの炭鉱でも、夏から秋にかけて従業員の大運動会が開かれた。競技は各地区別対抗形式で行われ、子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで参加する大家族リレーでは、全山が沸き立ち、地域総出の仮装応援合戦では、大爆笑が巻き起こる、炭鉱最大のイベントだった。入賞すると、日用品など



よーいドン!! 北炭神威の運動会 神威炭グラウンド

成田山祭りはこうだった!!



七月二十七、二十八日は北海道の三大祭りといわれた成田山祭りが行われた。

歌志内駅前には、サーカス小屋が二つ、見せ物、オートバイ曲芸が立ち並び、沢町、二条通りは露店がビッシリ並び、金魚すくいや射的、スイカ、瀬戸物のたたき売りなど、ゆっくり見ている暇もなく、人波に押されていってしまふ程の賑いだっただ。

臨時列車、臨時バスが運行され、近隣からも大勢の人々が次々と押し寄せ、二日間十万人の人出といわれる祭りだった。



かわいい法被の女の子 (昭和39年撮影) 本町二条通り

盛大だった 盆踊り大会

お盆の三日間と二十日に行われる盆踊りは文珠、歌磁、神楽岡、桜沢、歌神、本町駅前、上歌、呂久志など、炭住集落ごとに一晩中繰り広げられた。その踊り手の中で、ひときわ目立ったのが、赤いカーちゃんの着物に赤の「しごき帯」をたすき掛けし、額から鼻まで白い線を入れ、豆電球と小さな鈴のたくさん付いた化粧まわしを身に着けた、飛ぶように踊る男たちだった。



熱気あふれる盆踊り 際どい歌詞の歌もあった (北炭七十年史「昭和33年刊」より)

色電球や提灯の明かりが櫓を照らし、太鼓がバチさばきを競えば、それに合わせて摺籠が響き、歌と合いの手のかげ声も最高潮に達する頃、踊りの輪が、四重五重に広がり、山々には太鼓がいつまでもこだましていた。

炭住こぼれ話V

その一 新婚ほやほやの男が、三番方で出勤する時、新妻に「よばい」をかけられないか心配になり、屋根裏に隠れて見ていたが、天井を突き破って落っこち、長屋中が大騒ぎになった。

その二 長屋はどれも同じ形だったので、そのおやじサン、酔っ払っていい気持ちで帰ったのはいいが、ふと見ると隣の家だ。せつかくの酔いも覚め、ひたすら謝っているのを近所がみんな聞いていた。

その三 外に便所があったので、真冬になると落としたものが凍りつき、だんだん山のように盛り上がり、真冬に用を足す時は、腰をずらして苦しい姿勢をとったり、棒を使ってこれを倒してからやる始末だった。

大相撲がきた!

最盛期の歌志内では、人氣絶頂の有名歌手や、大相撲の地方巡業を呼んでくるほど炭鉱会社の力が強かった。

昭和28年には、市庁舎の地鎮祭に横綱千代ノ山が奉納土俵入りを行ったという逸話が残っている。



横綱千代ノ山の力強い土俵入り 現在も当時の市庁舎はそのまま使われている

ほくろは正義の味方だ!

当時の子どもに圧倒的人気だったのが、チャンバラ映画「鞍馬天狗」、「紫頭巾」お気にいりの主人公になりきって、パッチの図柄にもこだわった。



頭巾はふろしき、ピンと伸びた部分には割り箸が入っている



塾長 黒田 豊

ごあいさつ

うたしな炭鉱の記憶再生塾 塾長 黒田 豊
早いもので、歌志内最後の炭鉱が閉山してから五年が過ぎ、街並も大きく変わりつつあります。炭鉱の最盛期には、住宅が道路側を造り上げたように、にびり立ち並び、活気に溢れていたのが、つい昨日のことのような気が致します。

「うたしな炭鉱の記憶再生塾」は、元炭鉱の従業員、商店、団体等の経験者からなり、往時の炭鉱とその暮らしについて検証する活動を行ってまいりましたが、この度、その成果を壁新聞「うたしな炭鉱の記憶再生塾」と地域マップ「思い出時刻表」として発表させていただきますことになりました。

これに機に、かつての歌志内がどのようなものだったかについて、関心を深めていただきたいと思います。

塾生氏名 今野辰子 江口つや子 中山教道 佐久間鉄雄 甲田富美子 今野光雄 佐久間茂子 佐藤秀雄 百井美智子 石井吉三郎 田村健雄